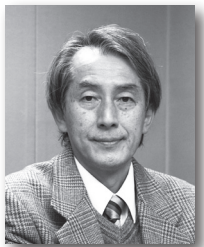


現代文 詩

空をかついで

石垣りん



講師
渡部 真一

■学習のねらい■

詩に親しみ、表現の特色や、詩の言葉の微妙なはたらきを知るとともに、詩を深く味わう力を養う。

学習のポイント

- 詩の表現の特徴を知る
- 「人はみんなで／空をかついで」などの表現の意味を読み取る
- 作者の言いたいことを読み取る

理解を深めるために

* * *

詩の表現の特徴を知る

詩にはいろいろな表現のしかたがあります。作者によって、あるいは、それぞれの詩によって、表現の工夫は様々ですが、この詩では、次のような点に注目してみてください。

①省略されている言葉は？

「肩は／首の付け根から／なだらかにのびて。」の後には、どんな言葉を補えるでしょうか。ほかにも言葉を補える箇所がいくつもあります。最後の、「少しづつ／少しづつ。」の後にはどうでしょう。

②言葉どおりの意味なのか？

「空をかついで」とは、言葉どおりの意味なのでしょうか。そうではなさそうですね。では、どんな意味を含ませているのでしょうか。

「人はみんなで／空をかついで」などの表現の意味を読み取る

「人はみんなで／空をかついで／きのうからきょうへど。」は、後の、「おとなたちは／きょうからあしたを移しかえる。」につながっていきます。「空」を「きのう」から「きょう」へ、また「きょう」から「あした」へと「移しかえる」とは、文字通りの意味ではありません。後に、「この重たさ」「この輝きと暗やみ」とありますから、この「空」とは、私たちが生きているこの世界そのものを表しているのでしょうか。もちろん、「きのう」は「過去」、「きょう」は「現在」、「あした」は「未来」のことでしょう。

この詩は、とてもわかりやすい言葉を用いていますが、伝えたいことは、もっと深い意味を含んでいるようです。

作者の言いたいことを読み取る

「少しずつ／少しずつ。」「おとなたちは」「子どもの「あまりにちいさいその肩に。」「重く、輝きと暗やみに満ちたこの世界を受け渡して行く、と作者は言っています。人はみなでこの世界を支えてきたし、今も支えている。大変なことだけれども、しっかり受け取り、受け継いでいってほしい、と言いたいのでしょうか。

空をかついで

いしがき
石垣りん

講師
渡部 真一

肩は
首の付け根から
なだらかにのびて。
肩は
地平線のように
つながって。
人はみんな
空をかついで
きのうからきょうへと。
子どもよ
おまえのその肩に
おとなたちは
きょうからあしたを移しかえる。
この重たさを
この輝きと暗やみを
あまりにちいさいその肩に。
少しずつ
少しずつ。

石垣りん（いしがき・りん）1920年（大正9）～2004年（平成16）
東京都生まれ。詩人。働く女性の視点から、日々の生活や社会の本質
を凝視し、平明な言葉で語った詩に定評がある。主な著作に、詩集『私
の前にある鍋とお釜と燃える火と』『表札など』や、随筆『ユーモアの
鎖国』など。『空をかついで』は、『略歴』（1979年刊）に収録。本
文は『石垣りん（現代の詩人5）』（1983年刊）より。